

人権とんだ

1 月号

令和5年(2023)

No.526

《問い合わせ》
共生社会部福祉共生室人権共生推進課
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

じんけん
人権作文

ポカポカポカ

冬は寒いな
ストーブ温かいな
ポカポカポカ
冬は寒いな
家は温かいな
ポカポカポカ
冬は寒いな
みんなやさしいな
ポカポカポカ

狭間小学校5年(昨年度)
市井 心晴さん

三田市教育委員会教育研修所 発行
三田少年少女 柿の実詩集 第XII集より

子どもたちからの

メッセージ

子どもたちは、学校や地域社会で様々な人と出会い、多くの体験をしています。嬉しい体験や楽しい出会いもありますが、子どもたちにとってつらい体験もあるでしょう。様々な出会いの中で考えたことや気付いたことを、自分なりにまとめて発表したり作文にまとめることで、自分自身の心を見つめる機会となり、子どもたちは成長していきます。

今号と次号にわたり、市内の小中学生や中学生・高校生たちが書いた人権作文を掲載します。

子どもたちの素直な感性から、私たちがどのようなことに気づかされるでしょうか。

いずれも、12月3日(土)に開催された「人権と共生社会を考える市民のつどい」において発表された作品です。(紙面の都合上、高校生の作文は2月号に掲載します。)

色々な「普通」を

認め合う

けやき台小学校6年

岩田 葵衣さん



「多様性」。みなさんは、この言葉聞いたことがありますか？私ほどのような意味なのか分かっていませんでした。夏休みの宿題で人権作文があるということを家族と話していると、『多様性』でも調べてみたら？』と言われたので何気なく調べ始めました。

インターネットで調べてみると、「組織やグループなどで色々な人材を採用し、色々な意見を取り入れたりそれぞれが持つ違った能力を生かしたりすることで、組織の競

争力を高めようとする取り組みを指す」とありました。また、「生まれ持ったもので変えることができない『年齢・性別・国籍・人種・民族・障害の有無』と、見た目では分からない『価値観・宗教・学歴・言葉・受けてきた教育』に分けることができる」ともありました。これを読んでも、私には理解することは難しかったです。結局は世の中には色々な人がいて、色々な考え方や生き方があっても良いということなのだろうかと考えました。

これまで私は十二年間生きてきました。まだまだ短い時間ですが、それでも学校の友だちも含めて色々な人と出会ってきました。その中で、自分と同じような考え方の人と一緒にいることは楽しいなと感じたり、全然考え方の違う人と話していても楽しくないなと感じたりすることがありました。学校の校外学習などの班を決めるとき、仲の良い友だちとはやりたいことがすぐに決まりますが、考え方が違っていている友だちとはうまく話が出来ず、時間ばかりかかってしまい、まともなことがあつたので、考え方の違う人とは

話をしても仕方がないと感じてしまい、考え方が違つというだけで、話すらしなくなつてしまったこともありました。

自分と考え方が違つと判断しているということは、これまでの経験で作つた、自分だけの「ものさし」で周りの人を見ていることだと思えます。「自分のものさし」、つまり「自分で勝手に作り上げた普通」で、人を判断してしまつているのではないかと思えます。私の「普通」が別の人にとっては全然「普通」のことではないこともたくさんあつて、その反対のこともたくさんあるはずですが、これまで生きてきた中で経験したことやそれぞれの性格が一人一人全く違つので、「普通」という考え方が違つているのは当たり前のことです。今までの私はこの考え方ができなかったのではないかと思いはじめました。

全ての人が育つてきた環境が違い、考え方も違います。色々な意見も出てきます。自分の考えとは違う意見を全て受け入れていくことは難しいことです。でも、最初から自分の「普通」と違つからといって、話を全くしないのは良くないことです。例えばその時は楽し

くなくても、話をすることで色々な意見や考え方がありと知り、自分の「普通」を見直して変化させていくことができます。また、全く知らなかつた物事に興味を持つことができるかもしれません。この多様性、色々な「普通」を認め合つて話し合いができれば、今起きている戦争もなくなつていくのではないでしようか。

これから先、私は中学、高校、大学、社会へと進んでいきます。三田市、兵庫県、日本、世界の人も多く出会っていくことになりました。自分自身の意見を持つことはとても大切なことです。でもそれが、「普通」であると考えるしまい、その自分にとっての「普通」を人に押し付けてしまうことがないようにしていきたいです。世界から不平等を減らしていくためには、多様性を認め合える世の中であることが大切です。

私は色々な「普通」があつても良いと思います。これからは誰に対しても態度を変えずに話をしたり遊んだりしていきます。小さなことですが、まず私にできることから始めます。



常識そのものを

疑う

狭間中学校1年

中川 美咲さん



私は中学一年生の文芸部員です。文芸部では課題の絵を描いたり、絵の練習をしたり、詩を書いたりしています。最後には出した道具を大きな箱に入れて、ロッカーの上に置き、床に落ちた消しカスなどを掃除して活動を終わります。いつからか、道具を箱に入れて、ロッカーの上に置くという作業はいつもAさんとBさんの二人がしているので、その作業はAさんとBさんの担当する作業になっていて、他の作業もなんとなく

く流れが出来て、この作業はCさんとDさん、あの作業はEさんとFさん…と決まっていきました。

ある日、いつも通り活動をしていると、Bさんが家の事情で早退してしまいました。そのまま片付けの時間に…。Aさんは、Bさんと二人で持ち上げる重さの箱を一人でなんとかしようとしていました。他の人達は誰一人としてAさんを手伝おうとしませんでした。私も手伝おうとはしませんでした。きつと他の人達もそうだったんだと思います。そんな時に、CさんがAさんに「手伝うよ！」と一言いきました。「一人じゃ持つの大変でしょ？」本当にその通りだと思えます。Cさんは、手伝うことが出来なかった人達が思っていたことを行動にしてくれました。Aさんは感謝を述べた後、Cさんと二人で作業を終わらせました。その出来事の後は、同じように困っている人がいたらすぐに助けるようになったので、部室が暖かい雰囲気になりました。

いうときは「することが大切」などの意見を紙に書いたり、言っているだけだったり、実際にいざという場面になると、相手の気持ちではなく、『自分が周りからどう思われるか』という気持ちのほうを優先してしまうと思います。でもCさんの『自分より相手を優先する気持ち』つまり『思いやり』が大きい人が行動できるんだと思います。

私は、この出来事の中で、疑問に思ったことがあります。私たちが部室で「出来事の後は、同じように困っている人がいたらすぐ助けられるようになった」のです。が、なんで、あの出来事の後からCさんと同じような行動をとるようになったのでしょうか。

私は、「AさんとBさんの担当する作業」という名の『常識』に立ち向かった、常識そのものを根本から疑ったCさんを見て、Cさんと同じ行動をとれるようになったんだと感じました。

私がこの体験を通して成長したと思うところは、「思いやりのすばらしさ」だと思います。思いやりを文や絵でみるのと、実際に目の前で体験するのはかなり違うと思いました。もし、Cさんも

Aさんを手伝うことが出来なかったら、きつとAさんは一人で作業をして、肉体的にも、なにより精神的にもつらい思いをしていたんじゃないかと思います。そんな思いをしなくてすんだのは、Cさんの思いやりがあったからこそなんだと思います。

今後、私は『意見を言うだけの人』『実際にいざという場面になると、行動ができない人』ではなく、Cさんのように『実際にいざという場面で行動が出来る人』つまり、思いを強く持つことができる人になりたいです。それと、日常生活の中で『常識』を見つけて、その常識は『この人には都合がいいけど、あの人がいたらつらいんじゃないか』『これってよく考えてみればくなんじゃないか、こうしたほうがいいんじゃないか』などと考えて、その『常識』を改善していきたいと思っています。一人ひとりが『常識』を改善して、世界を変えられるようになったらいいなと思いました。



令和4年度
ラブピース4コマまんが受賞作品

「ありがとう♡」



三田小学校3年
おにしゆの
大西 由乃さん

女性として生まれ、男性として生きる僕から伝えられること

- 日時** 令和5年1月28日(土) 14時~15時30分
- 講師** 大久保 暁さん (暁 project 代表)
- 場所** 総合福祉保健センター (講座室)
- 人数** 30人 (先着順)
- 申し込み方法** <https://logofom.jp/form/hyogo-sanda/185676> または二次元コードを参照
- 手話通訳、要約筆記** 1月13日(金)までにお申込みください。
- 一時保育** 1月20日(金)までにお申込みください。
- 申し込み締め切り** 1月20日(金) 17時まで



〈問い合わせ先〉：人権共生推進課 TEL：559-5148 FAX：563-7776

最期までどう生きるかを考える ~高齢者福祉の現場から~

- 日時** 令和5年2月5日(日) 14時~15時30分
- 講師** 前川 嘉彦さん (社会福祉法人三翠会 統括施設長)
- 場所** まちづくり協働センター (講座室)
- 人数** 30人 (先着順)
- 申し込み方法** <https://logofom.jp/form/hyogo-sanda/180909> または二次元コードを参照
- 手話通訳、要約筆記** 1月20日(金)までにお申込みください。
- 一時保育** 1月27日(金)までにお申込みください。
- 申し込み締め切り** 1月27日(金) 17時まで



〈問い合わせ先〉：人権共生推進課 TEL：559-5148 FAX：563-7776

子どもたちの人権意識が育まれるための課題は何か ~データから学ぶ日本の子どもたちの今~

- 日時** 令和5年2月26日(日) 14時~15時30分
- 講師** 神原 文子さん (社会学者・博士)
- 場所** まちづくり協働センター (講座室)
- 人数** 30人 (先着順)
- 申し込み方法** <https://logofom.jp/form/hyogo-sanda/192445> または二次元コードを参照
- 手話通訳、要約筆記** 2月10日(金)までにお申込みください。
- 一時保育** 2月17日(金)までにお申込みください。
- 申し込み締め切り** 2月17日(金) 17時まで



〈問い合わせ先〉：人権共生推進課 TEL：559-5148 FAX：563-7776

令和4年度 人権標語受賞作品



小野小学校 1年
くほのかのん
久保 奏音さん

多種多様
押しつけないで
その価値観
けやき台中学校3年
畑柚穂さん

くらしの人権相談

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜~金曜 9時~17時 (※祝日・年末年始を除く)

専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談 (予約)

TEL 559-5062 FAX 559-5063
月曜~金曜 9時~17時 (※祝日・年末年始を除く)
※専門相談員との相談日は予約後に調整

人権擁護委員による定例人権相談 (予約)

TEL 559-5148 FAX 563-7776
《次回相談日》1月26日(木) 13時~16時